

第1回

日本認知症の人の 緩和ケア学会学術集会

—いま、どうして認知症の緩和ケアを問うのか—

**演題募集期間
締め切りました**

開催日 2025年4月20日(日)

会場 WEB配信
オンデマンド配信: 2025/4/27(日)~2025/7/31(木)

参加費 学会員:3,000円 非会員:5,000円 (不課税)

学術集会長 小川 朝生 国立がん研究センター東病院 精神腫瘍科 科長

副学術集会長 鈴木 みずえ 浜松医科大学 臨床看護学講座 教授

学術集会HP
はこちら



<https://procomu.jp/jspcd2025/>

一般社団法人 日本認知症の人の緩和ケア学会第1回学術集会運営事務局
〒135-0063 東京都江東区有明3-6-11 TFTビル東館9階
株式会社 プロコムインターナショナル内

TEL: 03-5520-8821 FAX: 03-5520-8820 Mail: jspcd1@procom-i.jp

開催事務局

第1回学術集会プログラム

第1会場

9:00～9:40 開会挨拶・学術集会長講演

「いま、どうして認知症の緩和ケアを問うのか」

座長：平原 佐斗司、演者：小川 朝生

10:00～12:00 シンポジウム1

「BPSD、チャレンジング行動」

座長：遠矢 純一郎、鶴屋 邦江

演者：井上 真一郎、中西 三春、村島 久美子
佐藤 勝宣

BPSD (challenging behavior)について整理する。薬物療法については、精神症状緩和という本来の目的と薬理学的鎮静との誤解をとくために、薬物療法の基本から解説する。

非薬物療法については、日本版BPSDケアプログラムの国際共同開発の経緯と実際について紹介する。

12:05～12:25 会員説明会

代表理事：平原 佐斗司

13:00～14:00 特別講演

「認知症になってからも、自分らしく生きるために一当事者の声から学ぶ」

座長：小川 朝生、高山 陽子

演者：藤田 和子

インタビュアー：小森 由美子

14:10～16:40 シンポジウム2

「新しい認知症観が描く未来—医療安全と穏やかな暮らしで実現する、身体拘束フリーの認知症緩和ケア」

座長：平岩 千代子、森林 朋英、鈴木 みずえ

演者：佐藤（佐久間）りか、長尾 能雅

稲葉 一人、石川 容子

2024年度の診療報酬改定で身体拘束最小化チームの強化が義務付けられたが、現場では、身体拘束の実施の有無に固執しがちである。身体拘束最小化の本来の目的は、認知症ケアの質の向上や認知症の人の尊厳をいかに守るかである。そこで、当事者・安全管理者・法律家・看護師などさまざまな立場のシンポジストからご意見を頂き、認知症の人の尊厳を守るための安全管理と穏やかな生活をめざした身体拘束最小化を考える。

16:50～17:00 閉会挨拶

副学術集会長：鈴木みずえ

第2会場

9:00～10:20 一般演題1（6演題）

「意思決定支援」

座長：西山 みどり、大須賀 悠子

10:30～12:00 シンポジウム3

「認知症の軌跡を踏まえた支援」

座長：森林 朋英、吉際 俊明

演者：佐藤 香苗、後藤 響、那須 真弓

認知症の人のQOLを維持する上で、認知症がフレイルの一つであることを認識することは重要であるが、どうしても身体的な側面は見逃されがちである。療養のセッティングの違いをこえて切れ目のないケアを考える上で、認知症の軌跡を踏まえた支援を共有することが重要である。認知症の中核症状へのケアだけではなく、身体面を踏まえた包括的な支援について考える。

12:30～13:20 一般演題2（4演題）

「医療安全（身体拘束）」

座長：佐藤 典子、木野 美和子

13:30～14:50 一般演題3（6演題）

「認知症ケアチーム」

座長：高井 ゆかり、早川 景子

15:00～17:00 シンポジウム4

「認知症の人とのコミュニケーション～3つの場面から考える～（しゃべり場）企画」

座長：井上 真一郎、鶴屋 邦江、桑田 美代子
日向 園恵、立原 怜、佐藤 典子

演者：井上 真一郎、名古屋 譲、山下 いずみ
谷向 仁、岡本 明大、木野 美和子
小川 真寛、森本 景子、副島 沙彩

認知症の人の苦痛を緩和するために、私たちは、認知症の人とのコミュニケーションをとるのだが、認知症の人のニーズに沿ったケアになっているか悩むことがある。一人一人の認知症の人の緩和ケアにつながるコミュニケーションについて、3つの場面ごとに、様々な職種の方々の実践を参加者と共有し、明日からの実践に活かすことができればと思う。